

クリスチャンの寛大さ

鍵となる聖句：「あなたが畑で刈り入れをしているとき、束を一つ残しても、取りに戻ってはならない。それを、寄留者、孤児、または未亡人のために残しておきなさい。そうすれば、あなたの神、主は、あなたが手掛けるすべてのことを祝福してくださる。」

申命記 24:19

選読箇所：

申命記 24:14-22

『申命記』には、モーセが死の直前にイスラエルの民に伝えた最後の言葉が記されています。この言葉の目的は、神が過去に彼らの民に与えた教えを覚えて実践するよう、彼らに戒めることでした。その教えの一つが、今日の鍵となる聖句に記されています。この規定に関する説明は、その前の節に見られます。「あなたがたはエジプトで奴隷であったが、主なる神がそこからあなたがたを贖い出された。それゆえ、わたしはあなたがたにこれを命じる。」申命記 24:18

イスラエル人は、無力で困窮している人々を無視してはなりませんでした。むしろ、彼らは意図的に、畑に残されたものを、彼らが自分のために拾い集められるようにしなければなりませんでした。この指示の理由は、彼ら自身もエジプトで奴隷であった時、無力で困窮していたからです。ここでの教訓は、他者への配慮です。これは神に似た

性質の一面です。なぜなら、神ご自身がこの原則を適用されてきたからです。神の計画において、神は貧しく無力な人類を顧みてこられたからです。

完全な人間であったアダムがエデンの園で神の命令に故意に背いたとき、下された罰は死であり、それはその後、代々の人間へと受け継がれていきました。（創世記**2:16,17**）。すべての人間は罪の中に生まれ、不完全であったため、誰も「いかなる手段によっても兄弟を贖うことはできず、神に彼のための身代金を支払うこともできなかった」のです。（詩篇**49:7; 51:5**）

神の正義を満たすことのできるのは、罪のない完全な人間の生涯だけでした。すなわち、完全な人間であるイエスが、完全な人間であったアダムの不従順の代償として、その生涯を捧げたのです。

（出エジプト記**21:23**；ローマ人への手紙**5:12,19**）

神は、御独り子であるイエスを完全な人間としてこの世に遣わし、イエスが自ら進んで「すべての人の身代金」として命を捧げることで、神の正義を満たし、人類の一人ひとりを贖われたのです。

（ヨハネ**3:16,17**；テモテへの手紙第一**2:5,6**；ペテロの手紙第一**3:18**）

神がイスラエルの民をエジプトの奴隷制から解放されたように、キリストの足跡をたどる者たちをも、罪と死の奴隷制から解放されました。（ヨハネ**8:35,36**；コリント人への手紙第一**15:22**）。私たちは常にこのことを心に留め、まだ福音を聞いていない人々や、まだそれを信じていない人々に対して、愛と憐れみを示すべきです。

宗教とは全く無縁でありながら、病気や愛する人の死といった困難な人生の経験をしている人々に遭遇することがあります。（ローマ8:22）。私たちは、神がイスラエルに与えられたこの教えにある「外国人、孤児、やもめ」のように、彼らを扱うべきです。そのような人々は、神の御言葉を聞く機会や信じる機会がなかったかもしれませんし、あるいはその心が御言葉に対して盲目になっているかもしれません。

私たちは彼らに対して愛と思いやりを持つべきです。可能であれば、真理の「種」を彼らと分かち合うべきです。そうすることで、すべての人のための復活への信仰の聖書的根拠や、まもなく全地に臨む素晴らしい御国の祝福について、彼らに伝えることができるでしょう。（コリント人への手紙第一 15:21,22；ヨハネの黙示録 21:1-5）。彼らが今この良き知らせを受け入れるか、あるいは私たちが真理と希望の種を蒔き、それがキリストの王国において彼らの心の中で芽吹くことになるかもしれません。